

京都教区時報

第194号

田中司教認可

毎月1日発行

発行 京都司教区 発行責任者 村上透磨
 編集 京都教区時報編集室 住所 京都市中京区河原町三条上の河原町カトリック会館5F



12
1993

(写真は、小山教会91年度馬小屋(38度線上に生れたキリスト)）

今日神の御子が生れる
この垣根の真中に
主はテントを張り住まわれた

今日神の独子が生れる
このうま屋の真中に
主ははだかで生れた

御子は平和の君と呼ばれる(MT)

人がこの地に置かれた時
大地は母のふところ
何處に走つても
母の掌(タナココロ)の中にあります

何時からですか
この差別を生み出したのは
人種差別 人格差別
人がこの地に生れた時
みな神の息吹きに満たされ
みな神の似像として輝き
みな神の栄光を輝かせていた
……暗闇があり……

何時からですか
この垣根を造ったのは
国と国との垣根
民族と民族の垣根

福祉の時代と

福祉コース

A black and white photograph showing a woman with short hair and a young child sitting at a table. On the table is a small potted plant and a clear glass bottle. They appear to be in a kitchen or dining area.

三三七

宣教修道女会

高齢化社会の到来

日本は1970年に高齢化社会を迎える。その後の進展は、歴史上どの国ともまったく比較のしようのない急速なスピードで進んでいます。そして、21世紀前半には、4人に1人が65歳以上のお年寄りという超高齢社会がやってきます。このように高齢化が進んでいる私たちの社会では、最近、特に「社会保障」や「介護福祉」という言葉が聞かれるようになりました。それは、お年寄りの問題をめぐつて、家族の力だけでは解決できなくなってしまったからです。

お年寄りへの関心と理解を

ところで、一方では、家族が伸び進展する中で、どんなことをしても老親を扶養しようという青年は、25・4パーセントという数字が上げられています。また、高齢者や障害者と交流したことがないという子供たちが、弱い立場にある人々にどのように接してよいのかわからぬという寂しい状況もまれではありません。誰もが暖かく住みやすい社会を築いてゆくためには、これから若い人たちの中に、お年寄りに対する関心と理解を深めることが、大変重要な課題になつてくると思われます。

人生80年代と言われる現代の日本社会では、両親の扶養や自らの老後の問題は、私たち自身の身近な問題として、今や全国民の大きな関心となつてきています。

21世紀を目前にして、これから社会を担つてゆく若い人たちは力を合わせて人生80年代にふさわしい社会を築いてゆかなければならぬでしよう。

「福祉科」とは

文部省は、6年前に、家庭科や衛生看護科と並んで、高等学校における新しいタイプの職業教育として、「福祉科」の設置をきめて意義深いものとして取り上げました。可能性に満ちた多感な高校時代にやさしい思いやりの心と、社会の現状を直視できる確かな目を

ところで、一方では、家族が伸び進展する中で、どんなことをしても老親を扶養しようという青年は、25・4パーセントという数字が上げられています。また、高齢者や障害者と交流したことがないという子供たちが、弱い立場にある人々にどのように接してよいのかわからぬという寂しい状況もまれではありません。誰もが暖かく住みやすい社会を築いてゆくためには、これから若い人たちの中に、お年寄りに対する関心と理解を深めることが、大変重要な課題になつてくると思われます。

介護福祉士とは
介護福祉士とは、身体上または精神上の障害があるために、日常生活を営むのに支障がある人に、食事、入浴、リハビリテーションなどの介護を行い、また、家族などの介護にあたる人たちを指導する専門家です。介護福祉士は、ケアマネージャーとも称される介護福祉士のスペシャリストで、国家資格を

介護福祉士とは

介護福祉士とは
介護福祉士とは、身体上または精神上の障害があるために、日常生活を営むのに支障がある人に、食事、入浴、リハビリテーションなどの介護を行い、また、家族などの介護にあたる人たちを指導する専門家です。介護福祉士は、ケアマネージャーとも称される介護福祉士のスペシャリストで、国家資格を

養うことは、自分ばかりでなく多くの人々の人生を豊かなものに変えてゆくことでしょう。

現在、全国20校以上の高校がすでに多くの時代の担い手を世に送り出し、時代の先端を切り開いています。京都府下では、平成6年度に、聖家族女子高等学校に初めて「福祉コース」が設置されました。福祉コースはコース卒業とともに、「介護福祉士」の国家試験を受験する資格が取得できます。

ほんものの豊かさを求めて
社会の豊かさは、ハンディを負
った人々の人権がどれだけ大切に
されているかということによつて
測られます。青年が豊かに育ち、
弱い立場にある人々を支えるのは
あたりまえだとする文化を、経済
効率を重視するこの日本の社会に
築いてゆくことが、これから日本
の教育に強く求められているの
ではないでしょうか。

持つのは、世界に先駆けてわが国
が最初です。

21世紀の高齢社会をすべての人
々が健康で生きがいを持ち、安心
して生涯を過ごせるような社会と
するため、厚生省は、多様化した
ニーズにきめ細かな対応ができる
よう、平成元年に「高齢者福祉10
カ年ゴールドプラン」を打ち出し
ました。平成11年には、在宅介護
支援センターを1万カ所に（0カ
所）、ホームヘルパーを10万人に
(約3万人)、ショートステイを
5万床に（約4千床）、デイサーサ
ビスを1万カ所に（約1千カ所）、
老人保健施設を28万床に（約2万
8千床）拡充する計画が実施され
ています。（カツコ内は平成元年
の数字）。

聖家族女子高等学校教諭（国際文化コース・宗教・世界史担当）

洗礼を受けていない
人のための

結婚講座

を終えて

話す事はむつかしいという評価を受けました。

京都教区より、洗礼を受けていない人で教会で結婚式をなさる方のために、福音センターで結婚講座を開くように要請を受け、第1回結婚講座を、去る9月4日より10月2日まで全5回を、無事終えることができました(毎週土曜日午後2時~3時30分)。

各教会の主任司祭を通して申し込まれた方々が12組、小ホールでは狭くて、大ホールを使う事になりました。

1回目は、「結婚について」。

担当は島本須美子。各自の結婚に対するイメージや期待を書いて頂き、グループに分かれて分かち合い全体にもどつて発表する。このグループワークの方法は、参加者の方に少なからず戸惑いを与えた様で、始めて顔を合わせた人達と

京都教区より、洗礼を受けていたり、その結婚は無効である事が話の中に一貫して流れていて、2人に2人の意志が伴わないとしても、その結婚は無効である事が祭の尋ねる言葉に2人が答える時、そこに2人の意志が伴わないとしても、その結婚は無効である事が話の中に一貫して流れていて、2人の意志の大切さを参加者の方は受け取られた様です。「教会の結婚式の厳格性が理解できた」と、感想の中ありました。

3回目は、「生命の医学」。講師は斎藤洋子さん。始めに「生命の創造」のビデオを見ました。女性の胎内で精子が受精され、人の体に成長してゆく過程と命の誕生の瞬間が映し出され、人の手のとどかないところで、営まれる命の不思議さに、見終えた時は感動の雰囲気が漂っていました。次に、男性と女性に分かれて分かち合いましたが、男女に分かれた事は2人の関係を他の人の関係に広げるよい機会になりました。男、女、

3回目は、「生命の医学」。講師は斎藤洋子さん。始めに「生命の創造」のビデオを見ました。女性の胎内で精子が受精され、人の体に成長してゆく過程と命の誕生の瞬間が映し出され、人の手のとどかないところで、営まれる命の不思議さに、見終えた時は感動の雰囲気が漂っていました。次に、男性と女性に分かれて分かち合いましたが、男女に分かれた事は2人の関係を他の人の関係に広げるよい機会になりました。男、女、

4回目第一部は、「死と再生」。担当は柳本師。結婚は、古い自分に死に新しい自分に生まれるという意味がある事。よく生きる事は在であつて死んでも生きる存在である事。肉体は無くなつても、靈

は生きて私達のために祈つている事など、結婚にはタブーとされた「死」という言葉を使つて、人間が靈の存在である事を話されました。少しむつかしい話だが、人には死がないという事が印象に残つたという反応がありました。

4回目第二部「夫婦の対話」。担当は島本須美子。1回目に各自が書いたものを使って、2人で15分間話し合つて頂きました。15分なのに話すことがなくて困つた、平素対話していない事に気付いたといつた人もありました。次に創世記2章を引用しながら、神は男と女を向き合う存在としてお創りになつた事、子は親から離れて結び合つがその結びはもろく壊れやすい事。だからこそ、お互いの違いを理解するために対話が必要である事を、事例を使って話した。

5回目は、「男、女、性」。講師はシスター石崎。人間は神よりまほ性を良しなさつた事。男、女の役割機能が違う事。違ひの中で大切な事は、お互いの独自性である事。また男・女・性には、感じ方の違ひがある事。性の性格には身体性と精神性がある事を事例を使って話された。

この違いをお互いが労わり慈しみながら、受け入れ理解しあつて、お互の育ててゆく。この過程の中で、自分に死ぬ事も要求されるし、対話も必要になつてくる。子供の命が創造されてゆくように、夫婦は男、女、性を懸命に生きて、夫婦のあり方を創造的にどのように築いてゆくかであると、全体をまとめてくださいました。

12組中、1組はご都合で、講座を中止され、後の11組の中で5回出席者9名、4回出席者4名、3回出席者6名、2回出席者3名でした。私の印象では、皆さん熱心に耳を傾け、めずらしい話を聞くなどという感じが伝わつて参りました。

始めての企画で、足りないところも沢山感じています。他の人々との交わりが、ほとんど出来なかつた事は大きな反省点です。次回はこの点を留意したいと思います。

信徒使徒職 養成コース

——基礎コース

● 幅広い年代から

今年はご存じのように雨の多い夏でしたが、8月27日～29日は久しぶりに太陽がまぶしく輝いていました。丁度その間、福音センターは、三重県の津研宗館で基礎コースを開催いたしました。

21名の参加者は津教会を始め、亀山、伊勢、久居、草津、八木教会の信徒の皆さんで、20代～70代という幅広い年齢層の方々でした。が、研修への熱意は年齢の差等全く感じないほど意欲的に参加してくださいり、主催する者として、身の引き締まる思い、頭の下がる思いで共に研修させていただいた思ひでした。

● 基礎コースとは

基礎コースは、他の養成コースの基礎的知識の講話と、個人、或

はグループでの体験学習を織り込んだコースです。すなわち、コミュニケーションの訓練、信徒と教会、信徒の使命、聖書研究、朗読、カリスマについて、また典礼の準備等を通して、洗礼によって与えられる恵みとは何か、またその恵みは誰かのために与えられ、そし

てその恵みを日々の生活の中でどのように活かし、用いて行くことができるかと言うことを学んで行きます。

特にこのコースは、人間の存在価値が薄れつつある現代の社会、家庭、そして教会共同体の中できることのできないコミュニケーションの大切さを身をもって体験する場もあります。

日々の生活の中では分かり切っていること、当たり前のこととして人の言動を聞き逃したり、見過ごしていることがあります。また、自分との違いを受容れ難く感じたり、苦しく感じたりすることもあります。でも寝食と共にしながら、コミュニケーションが深まる中で触れる言動に、その人のユニークさ、その人にしか見られない輝きに気づき、違いを恵みとして受容れ合うことが出来るのです。

一人一人に備わっているユニークさこそ、神様からの特別の贈り物であるカリスマであり、同時にそれを用いて、言葉や行動で、人々に神様からのメッセージを伝えます。

僅か3日～4日間の研修ではありますが、各々が神様から特別の

● ユニークさに気づいてこそ

特にこのコースは、人間の存在価値が薄れつつある現代の社会、家庭、そして教会共同体の中できることのできないコミュニケーションの大切さを身をもって体験する場でもあります。

日々の生活の中では分かり切っていること、当たり前のこととして人の言動を聞き逃したり、見過ごしていることがあります。

また、自分との違いを受容れ難く感じたり、苦しく感じたりすることもあります。でも寝食と共にしながら、コミュニケーションが深まる中で触れる言動に、その人のユニークさ、その人にしか見られない輝きに気づき、違いを恵みとして受容れ合うことが出来るのです。

● 研修で得たこと

今までに参加してくださった方の中から、「自分には決して出来ないと思っていたこともチャレンジ出来た」という喜びの便りや、

報告をいたいたしたことなどが幾度かあります。また、最近参加してくださった方の「ぶりかえり」の中で

・対人関係において、コミュニケーションの重要性、聞くことの大きな意味を知りました。また役割にも、その意義を見出し、キリスト者であることとに喜びを感じます。

・3日間で、すばらしい、楽しい、心から分かち合える共同体ができることは何よりです。

・人間の成長は、人ととの交わりの中でしか実現できないことを知りました。

そうであつてはならない。あなたがたの中で偉い人になりたい者は、皆に仕える者になり、一番上にないなりたい者は、皆の僕になりなさい」(マタイ20・25～28)と、今も語り続けていらっしゃるこのメッセージを噛みしめながら各自の生活の場に帰つて行かれるのです。

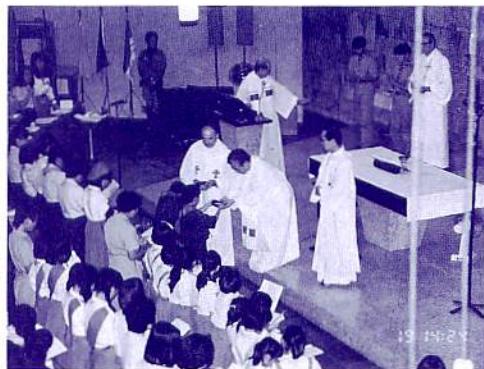
● 研修で得たこと

これからも、一人でも多くの方が信徒使徒職養成コースに参加してくださり、皆さんの手によつてより豊かなコースに発展させてくださることを願つております。

* 養成コースについてのお問い合わせはカトリックきょうと福音センターまでお願いします。

電話 075-822-7123
FAX 075-822-7020
(担当・桂川美代)

●第14回カトリックスカウトの日―― 国境を越えた神の国を目指して



御旨を行うことができるよう、皆で心を一つにしてお祈りをお捧げします。

京都教区では、第1回からずっと、ガールスカウトとボーイスカウトが合同で御ミサをお捧げし、司教様も御都合のつく限り、司式をして下さっています。また、この日は、同じカトリックの精神で結ばれた仲間達が、年に一度顔を合わせる友好の日でもあります。

今年は奈良を会場として開かれました。例年のように、今年も、午前中のハイキングを楽しんだあと、午後、奈良教会聖堂にて、1時45分より開会セレモニー。2時より御ミサが行われました。司式は、奈良教会の東門神父様はじめ、田中司教様御不在のため、お忙しい中かけつけて下さいました村上真理雄副司教様、そして、西院の松本秀友師、ステイリーブ師、大和高田のワイツクス師、大津のウォルケン師の6名。参加者は、ボーイスカウト関係約220名(6ヶ団)、ガールスカウトの関係約260名(10ヶ団)で、2階バルコ

ニーも使つて、聖堂内満員になりました。

毎年、CBS(カトリックボーカスカウト)担当司教の濱尾文郎司教様より全国のスカウトに向かってメッセージが送られ、それを御ミサの中で朗読し、今後のスカウ

ト活動への指針として、決心を新たにします。

今年のメッセージは、次のような内容でした。

「最近、発展途上国から仕事を求めて日本に来ている多くの人々がいます。彼らは日本の法律を犯しているにしても、兄弟として、彼らが安心して生活できるよう、援助の手を差しのべなければなりません。これらの日本社会には、難民や外国人労働者の子供達も増えるでしょう。神と人とに仕える

CBSの皆さん、そのような人たちに出会つたら、彼らを快く受け入れ、よい友達になつてください。国際的な集まりに参加した場合にも、一人でも多くの友達を作り、その輪が世界の国々にまで広がるよう……」

今日の御ミサに参加したスカウト達が、このメッセージを心に刻み、これからスカウト活動に励むことができますよう、また、本日参加できなかつたスカウトにも、このメッセージが伝えられ、共に神の御旨を行つてくれますよう、心から願つております。

御ミサの後、京都教区支部で独自に行つてゐる宗教トレーニングキャンプに多数参加したスカウトへの表彰、各団のエール交換などをを行い、来年の再会を約して、3時半すぎ終了、解散しました。

(文責・CBS事務局 東)

9月19日(日)朝9時半、奈良公園に、京都教区内のカトリックスカウト達が集まつてきました。これから奈良公園を中心、3つのコースに分かれてハイキングです。さあ、今日は久しぶりで多くの兄弟姉妹と会える日です。

今日は9月の第3日曜日、即ちカトリックスカウトの日(スカウトサンデー)です。今年、第14回日を迎えた。この日は、全国のカトリックスカウトが御ミサと共に、スカウト活動を通して神の



あなたの良き隣人として

カトリック御葬儀
貨物一式(仏式可)

聖ヨゼフ葬典社

パウロ 杉下安雄
(西院教会所属)

京都市右京区西院寿町23
☎ (075)312-7829

三重県カトリック信徒大会

出会い
ふれあい
育ち合い

三重県カトリック信徒連絡協議会では、10月11日津市半田のセントヨゼフ女子学園で「出会い・ふれあい・育ちあい」のテーマのもとに三重県カトリック信徒大会を開催した。この大会には、三重県内10教会の司祭・信徒約170名の参加があった。

この大会は県内の信徒の交流を目的に、1年置きに開かれてきた

調された。

また、ミサの中で説教の同時通訳をし、共同祈願は中高生・青年・壮年・婦人・熟年・子羊会・在日外国人の代表による折りが捧げられ、主の祈りも、日本語・英語・スペイン語・ポルトガル語・タガログ語の五か国語で祈るなど、国際的な一致ミサとなつた。

引き続き、全国会議代表の下平氏のあいさつと、柳本神父の講話

ものであるが、今年は第2回福音宣教推進全国会議の年であること、前回の大会から在日外国人の参加が増えたことなどから、出会いを大切にし、ふれあい（分かち合い）、育ちあい（学びあい）ながら、人のことを大切にできる心の豊かな人間に成長していきたいという願いをテーマにした。

大会は午前中、田中京都司教、

柳本NICE担当司祭と県内司祭の共同司式によるミサではじまり、ミサの中で田中司教は、ミラノの「世界宗教者平和のための祈りの集い」に参加した体験から、異宗教の人々に改宗を迫るのではなく、それぞれの違いを認めながら互いに交流することで心の一致を目指すことの重要性と、従来の日本人の共同体意識の回心の必要性を強調された。

また、ミサの中で説教の同時通訳をし、共同祈願は中高生・青年・壮年・婦人・熟年・子羊会・在日外国人の代表による折りが捧げられ、主の祈りも、日本語・英語・スペイン語・ポルトガル語・タガログ語の五か国語で祈るなど、国際的な一致ミサとなつた。

引き続き、全国会議代表の下平氏のあいさつと、柳本神父の講話

があり、柳本神父は講話の中で、「教区ビジョンや第1回NICEのビジョンに、方向性とエネルギーを持たせるのが第2回NICEであると位置づけ、そのエネルギーの源は私たち信徒が共感と共有を求めてそれぞれの教会やグループで分かち合ってきた実りであり、これからもこの分かち合いによつて宣教共同体づくりが続けられるよう祈りたい」と結んだ。

午後からは、ブラジルのお菓子とお茶を準備して、アコーデオンによる軽音楽の生演奏がはじまり、それをきっかけに、餅つきがはじまり、最近は機械化されて家庭から姿を消したもち米を蒸し籠で蒸して、臼と杵でこねてつき、おろし餅、あんこ餅、きな粉餅をつく

る本格的な餅つきに、人気が集まり、懐かしむ人、初めて体験する人それぞれに参加し、つきたてのおもちを味わいました。

さらに、学園特製のドーナツが提供され、楽しい昼食のひとときを過ごした後、会場の内外では壮年大会や婦人大会で顔見知りになつた他教会の人と話し込むグループがあちこちにできた。

視聴覚教室では権力に屈せず信

り、懐かしむ人、初めて体験する人それぞれに参加し、つきたてのおもちを味わいました。

さらに、学園特製のドーナツが提供され、楽しい昼食のひとときを過ごした後、会場の内外では壮年大会や婦人大会で顔見知りになつた他教会の人と話し込むグループがあちこちにできた。

午後3時にNICE2の実りと回心を願つて、祈りと「主の愛に生きよう」を合唱して閉会した。



カレンダー売ります!!

青年センター

京都教区の皆様、京都カトリック青年センターからのお知らせとお願いがあります。

昨年までは、柳本昭神父様による切絵の教会シリーズが好評で皆様には大変お世話になりました。

今年は少しかえてみました。

「私が大切にしているもの」

ということで数人の青年に絵を書いて頂きました。それともとにカレンダーを作成しました。カレンダーを見たら青年が何を大切にしているのかわかると思いますし、教区の皆様も自分が何を大切にしているのか考えていただけたらと思います。仕事や家庭、地域社会の中で忙しい毎日を送っている人が多いかと思います。たまには、じっくりと自分の事をみつめる時間があつてもいいかと思います。

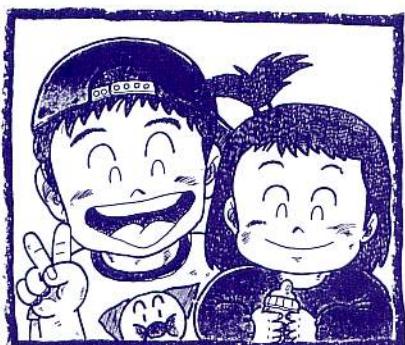
カレンダーは、各プロックの運営委員をはじめ各教会の青年にお問い合わせ下さい。又、直接青年センターまでご連絡下さればあります。売り上

げは、青年センターの活動資金にさせて頂きます。

青年センターは皆様から

の協賛金等によって支えられておりますが、活動費はできるだけ青年で作ろうと

いうことになつております。



レンダーもその一環です。ですからカレンダーの内容はともかく、青年センターは青年自身が支えるという意味でも一部お買い上げいただけたらありがたく思います。青年でない人も、未來の教会の希望である青年が、交流を深めたり、ネットワークを広げ青年自身が成長していく様ご支援のつもりでご購入頂ければ幸いです。

ぜひ皆様の御家庭に青年センターのカレンダーを御利用下さい。

キリストが仕えられたように

特別聖体奉仕者学習会にて

京都北部特別聖体奉仕者学習会が10月3日、宮津教会に於いて開催されました。

一部の司教様の訓示で学んだ事は、キリスト迫害時代に司祭が居なくともキリスト教團に水方・教え方があつたように、信仰集団があれば奉仕者を必要とする。N

ICEの精神を持ち、日本の教会の優先課題：食卓を共にしていない人を「主の食卓に招く」。社会

の中で非福音的な価値観を、福音的にくつがえして行く。他宗教の人とも対話する事により、お互いの信仰を知り合い、そのよい宗徒となる事。

柳本神父様の訓示は、9月号3頁をご覧下さい。鈴木神父様のお話は、在宅老人と老人ホームへの聖体奉仕体験。在宅老人や老人ホームへ巡回する日、外出できる一人を車に乗せ、次の所へ行く。そ

の人が乗せて、寝たきりの人を訪ねる。一緒に御聖体拝領する事で、共同体的交わりが出来るようになつた。これからも共同体的な奉仕を心がけて、「交わり」を考えやつてみたいと。

キリストが人々に仕えられたように、今も仕える為に奉仕者を召される旨を自覚し、人々に奉仕する精神で行なうなら、集会祭儀も他教会の人々も丹後の司祭方も感謝した。

キリストが人々に仕えられたように、今も仕える為に奉仕者を召される旨を自覚し、人々に奉仕する精神で行なうなら、集会祭儀も教会に詣れない人々への奉仕も、イエズス様の慮りにあやかつて、うまくつとめられるのではないかと思つた。

12月

教区スケジュール

- 4日(土)国本神父の音楽講座
(西院カトリック会館)
- 5日(日)結婚互助会相談室
(河原町カトリック会館)
- ▽バザー(四日市教会)

- 9日(木)司教顧問会
(河原町カトリック会館)
- 10日(金)信睦二金会(西陣教会)
- 11日(土)こども映画のつどい
(西院カトリック会館)

- 11日(土)ラッキー師納骨式
(河原町カトリック会館)
- 13時(10月25日帰天)

- 11日(土)宣教司牧評議会
(河原町カトリック会館)

- 12日(日)子羊会クリスマス
パーティ(大津教会)

- 14日(土)部落問題委員会学習会
(河原町カトリック会館)

- 18日(土)部落問題委員会学習会
(河原町カトリック会館)

- 19日(日)Xマスマスページェント
(津・セントヨゼフ)

- 24日(金)市民クリスマス
▽クリスマス深夜ミサ

- 25日(土)クリスマスマサミサ
27日(月)京都南部及び教区司祭
月例会
(河原町カトリック会館)

お知らせ

国本さんの音楽講座

ヘンデル オラトリオ メサイア

日時・12月4日(土)

場所・西院カトリック会館

参加費・1500円

問合せは福音センターまで

075-822-7123

かえている問題点を宣教司牧評議会で整理し、87年6月の臨時評議会に於いて、3つの課題(パイプのつまり・青少年の問題・適正配置)に絞り込み、その取り組みを初めました。

その年は、ちょうどNICEと

京都教区創立50周年とが重なったこともあり、会議の多い年となりました。その後、NICEと教区

創立50周年に於いて出された種々の課題も含めて、上記の3つの課題と一つづつ取り組み、司教様に

答申して来ました。そして、今年6月の宣教司牧評議会に於いて、

この3つの課題の取り組みが、一応一段落しました。

「一万匹の蟻運動」基金報告

累計 4,516,019円

加入者 669名

(11月15日現在)

宣教司牧評より

評議員の皆さんのご協力により、今年アンケートの解説書が完成しました。

約6年の間、私たちが取り組んで来ましたことは、以前にもお聞

きになつたと思いますが、京都教区ビジョン宣言文が、81年11月23日に発表されたことに始まります。

その後、ビジョン推進委員会に於いて教区ビジョンの具体化を検討

し、更に85年に正式に発足しまし

た宣教司牧評議会を通して、教区

ビジョン推進の中での種々の関わ

りについて、教区内の信者の皆さ

ん方に広くご意見をいただきまし

た。

そのご意見をもとに各組織がか

編集部よりのお知らせ

9月号3頁に掲載しました「御杖村山仕事教室の案内」の記事でその後変更がありましたのでここでお知らせします。

・月例開山日・第2土日(原則)

・週例開山日・月火(月3回程度)

来られる際は左記へ連絡を。

事務局・木曜日10時~16時

TEL 06-754-1121

江端 TEL 0720-31-0357

午後8時頃